

第30回MQI活動発表大会

2025年度MQI統一主題

新たな挑戦への一歩を共に踏み出そう

みみより

MQI



発行（公財）練馬総合病院MQI推進委員会
〒176-8530 練馬区旭丘1-24-1
TEL03-5988-2200（代）

継続フォローの会・3年目フォローの会

副院長・MQI推進委員会副委員長 東 宏一郎



MQIで構築された新たな業務の仕組みを継続していくことは、非常に重要です。そのため、「歯止め」と「標準化」が欠かせません。適切な部署への業務移管は必要不可欠ですが、たとえ業務を引き継いでも、うまく機能せずに形骸化してしまうリスクがあります。継続が困難となる主な要因としては、改善内容が最適ではなかった場合や、優れた改善策であっても職員への周知や教育が不十分だったことなどが挙げられます。

「継続フォローの会」は、PDCAサイクルを回しながら、成果を維持・発展させていくことを目的としています。私たちが多くの時間と労力をかけて築き上げた仕組みを、確実に継続し、さらに洗練させていきましょう。

2025年度 MQI活動 振り返り



2025年度MQI 継続フォローの会（2026.3.3/3.17開催）

MQI推進委員会では、MQIの成果が継続できるように、フォローの会を開催し、活動をフォローしています。

	現在の状況及び今後の活動について	推進委員からのコメント
臨床検査科	連絡の有無で「連絡なし」が16%（13件）あった。発表後は件数の集計をしていないが、ほぼ無い状況である。実施日のコメントを整形外科以外の診療科に広げるか、外科系の科を対象に検討していく。 エコー検査室の増室準備を進めており、検査担当で、予約枠の時間設定や、運用方法について協議している。	連絡無しは一定数いるが、適宜連絡を取り事前に連絡してもらうよう周知しています。 新設されたエコー室は、検査室として使用し始めました。しかし、時間枠の設定、対象患者・検査部位の選定、人員の配置など本稼働させるには課題が残っています。引き続きエコー担当で本稼働に向けて協議していきます。
放射線科	夏季は38枠/日を予約検査枠として設定したが、12月から3月は35枠/日を予約枠として設定し、緊急検査枠を30分増やした。 6月中旬に撮影時間を短縮できるAIを導入したため、検査時間の検討が不十分だったが、担当技師間で協議し、3項目の検査について検査枠数の変更を行った。	現在は夏季にさしかかるため、緊急検査の減少を想定し38枠/日に設定しています。冬季は問題なく業務を進めることができました。 今後の検査枠の変更に関しては、各検査にかかる平均撮影時間を調査しながら最適な調整をしていきます。
リハビリ科	現在毎週水曜日の10時から初級、11時から中級を継続して開催できており、利用者さんにはご満足頂けている。しかし、今後上級レベルの開催や、週二回実施してほしいという希望もあるが、現在のリハビリ科の人数では通常業務にも影響が出てしまうため、もう少しマンパワーが増えれば、より積極的な集客や枠の増大を検討していきたいと考えている。	今年の7月で運動教室を開催して1年が経過します。多くのスタッフに協力してもらい、継続して活動できていることを感謝しています。 現在、この1年間の問題点や課題をまとめ、特に運動内容や運動効果に対する評価面の見直しを検討しています。今後も継続的に活動し、利用者さんに満足して頂ける運動を提供できるよう努力していきます。
医事課	対策を講じなかった診療科医師への勉強会が未実施の為、新入職オリエンテーションで説明するとともに各診療科カンファレンスで勉強会を計画している。 修正の多かった事例を各診療科医師と共有後、公費や難病についても説明していく。 電子処方箋の本稼働の見通しがつき次第掲示物、案内を掲示予定である。	各診療科のカンファレンスにまだ参加できていないため、今後の課題として継続していきます。また、その際に事例として説明できるよう、情報収集も引き続き行っています。 電子処方箋に関しては、本稼働までまだ時間がかかりそうなので、今のうちにフローの見直しなども出来ればと考えています。
薬剤科	薬物治療終了後は来院スケジュールを決め、体重や採血等を行い、栄養指導の継続又は薬剤の再開をするかなどのフォローを検討している。 治療薬導入後の、体重変化や治療の継続率、薬剤選択による治療効果の違い等のデータは、ファイルメーカーから治療情報収集をしている。薬剤導入が始まって間もないため、引き続き導入患者の経過をフォローしていく。	【肥満症治療にチームに取り組む】をテーマに活動しました。活動後は新規治療開始患者も着実に増えています。糖尿病センターを中心に医師、看護師、薬剤師、管理栄養士など多職種で連携し、患者さんの治療に関わることができており、現時点ではフローの不具合もありません。保険薬局との情報連携も継続しており、相互に副作用のフォローができています。今後も活動を継続していきます。
内視鏡センター	検査開始後の疼痛軽減を図るため、経鼻内視鏡検査での咽頭麻酔の実施、及び検査中に内視鏡表面への局所麻酔薬の塗布を行う。また、病院HPに検査方法・流れの説明を記載する。 検査中の苦痛を比較検討するため、患者にアンケート調査を行い、統計解析の結果をもとに効果確認した。5月の日本消化器内視鏡技師学会にて発表した。	前処置の工程を見直し、業務負担の軽減と患者さんの疼痛軽減の両立に取り組みました。この活動を通して「前処置だけでなく、内視鏡検査そのものの疼痛はどうか」という新たな課題に気づき、現在の継続活動につなげていることは、まさにMQI活動の本質だと感じます。 学会発表にも挑戦し、現場の実践を院外へ発信したことも素晴らしい成果です。
看護部	InCircleTALKのログイン率や使用率は増えており、検査科・放射線科での機器点検やお知らせ、ベッドコントロール時には師長間で活用できている。また、事務所PCにも導入し、今後の連絡手段の一つにしていく。 InCircleTALKで連絡しても返信が来ず、電話連絡をする事や、中途入職された医師がログインを一度もしていないことがあり、引き続き周知を継続していく。	看護部ではInCircleTALKを用いて、連絡手段の一つとして活用できるよう活動を行いました。活動したことでInCircleTALKは周知され、看護部では特にベッドコントロール時の連絡手段として毎日活用されています。 医師については入職時等に周知する仕組みをつくり、業務負担軽減に向けて活用していただきましょう。

2022年度MQI 3年目継続フォローの会（2026.1.20/2.3開催）

MQI活動は、その年度のMQIチームが解散した後、活動の成果や活動で作成した業務手順が普段の業務の中に定着し、さらに発展していくことが理想です。3年目継続フォローの会は、活動報告書を作成した時の「歯止め・標準化」や「今後の課題」とした内容が、現在どうなっているかを再確認し、課題が解決できないままであれば、さらに検討する機会になります。新入職員の皆さまにも、ぜひ、以前の活動を知ってみたいと考えます。医療を取り巻く環境の変化に合わせてPDCAを回し、さらに医療の質を向上させるべく、活動を発展させましょう。

	発表時の「歯止め・今後の課題」のその後について	推進委員からのコメント
★検査科 『検査科 受付業務の 効率化』	依然として特に午前中の混雑解消はできていないが、少数ではあるが毎回事前採血を利用してくれる患者もいる。事前採血について、当日検査以外に新たな検査の受け方という選択肢を与えられたことは患者・医師の両者にとっても意義があったと考えている。 検査科への問い合わせ先の変更や、鼻咽頭採取の運用は感染状況などに応じて問題なく継続している。	午前中の混雑解消には、患者と健診との動線を完全に分離させることや、車いす患者が採血しやすくなる様に、場所を確保するなど、根本的な改革が必要となります。今後、病院拡大を計画しており、採血業務の見直しを進めていきたいと考えています。事前採血については、継続して周知を続けていきます。
★看護部 『身体抑制開始後の評価を見直し、解除を目指す』	病院全体の活動として、2024年6月より多職種で構成した「身体的拘束最小化チーム」を立ち上げた。その後、1年半で拘束実施率が約7.8%減少し、「拘束をどのように最小化していくか」という意識が高まり、更なる減少を目指して活動継続中である。特に、医師の拘束実施記録は、35～45%程度であるため、事後報告ではなく医師を含めた多職種で拘束開始・継続・終了判断を検討することを院内文化として根付かせていきたい。	安全を守りながら身体的拘束の最小化に取り組むことは、発想の転換と挑戦を伴う重要な活動です。身体的拘束最小化チームを立ち上げ、成果につなげていることは大変意義深いと感じます。患者さんが安心して、その人らしく療養できる環境をつくるために、今後も多職種で知恵を出し合いながら、活動されることを期待しています。
★事務部 『倉庫を整理して物品収納を円滑にする』	施設課関連の物品ですぐには使用しないが、緊急時に必要となってくるものを保管しており整理が難しい。（床頭台・感染対策用の備品、雪用対策資材など。）発電機や建物の部分改修に必要な資材、協力会社の資材置き場などのスペースが必要であり、現在は白百合の倉庫に物品を保管している部署があるが、今後使えなくなる可能性があるため、新たな倉庫などの置き場の検討が必要となってくる。	廃棄のサイクルを回してモノを少なくしていく流れが継続しています・ 購入するときにも、廃棄を見据えて院内に物が溜まらない仕組みを考え、さらに職員に廃棄の仕組みを周知していきます。増改築のタイミングで物品収納スペースの確保を病院に依頼し協議していきます。
★紙削減 有志チーム 『職員用の紙及び労力の削減』	会議中に手元で資料を閲覧したい職員用にタブレットの活用を検討したが、現在各会議室に大きなモニタが設置されたタブレットの必要性がなくなった。購入したタブレットは企画情報推進室に譲り他の用途に転用されている。 アンケートにて、第2、3会議室にも大きいモニタが欲しいとの声が多かったが、次年度に病院で導入いただけた。決済機能などでさらに紙を使用しない運用への変更を目指し、経理が進めているとのことである。	この活動を契機に、会議に資料を印刷しない運用が定着しました。その後の大きなモニタの導入により、プロジェクトの準備も不要になった上、カンファレンス等で鮮明な画像を閲覧できるようになり、業務の効率化と質の向上につながりました。カルテ側の紙削減にも取り組み始め、今後、さらなる発展につながることが期待できます。
★リハビリテーション科 『当院職員の健康づくり』	職員が健康づくりに継続して取り組めるように、ポスターを月に1回の頻度で内容を更新している。 以前作った動画はホームページから閲覧可能となっている。安全衛生委員会からまだ協力の依頼がないため特に活動していないが、今後は研修会などを検討している。 現状リハビリテーション科主体で行っている活動に関しては特に困難な点はない。	ポスター掲示は継続していますが、内容が固定化されつつあるため、より新しく興味深い内容を発信できるよう改善していきたいと考えています。 職員の運動機会の増大を目指し、今後はこぶし棟1Fに職員向けの運動機器等を設置できるよう、東副院長と協議検討して職員の健康づくりに継続して貢献していきます。

MQI活動30周年記念式典（2026.2.26開催）

MQI（医療の質向上）活動30周年を記念し、Coconeriホールにて、式典を開催いたしました。来賓の方々からの祝辞、推進委員や今年度の活動チームによる発表、プロの音楽家によるフルートデュエットや、MQI活動に関するクイズ大会の催しもあり、美味しい食事と共に楽しいひと時となりました。

これまでの30年の歴史を振り返り、また一歩ずつ新たな活動を積み上げ、40年・50年と続けていけるように頑張りましょう。

会場の様子

